



British Politics Today

2013年9月1日
第2巻 第9号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 キャメロン首相の大失敗
- 3 性急な公務員改革
- 4 政治家列伝
マーティン・マクギネス
- 5 政治とお金

1. はじめに

英国では、既に秋の天気です。日本の猛暑とは異なり、気温は最高が 26 度程度、最低が 12 度程度と過ごしやすい季節になりました。

さて、英国の政治は夏休み中でしたが、下院が 8 月 29 日にシリア問題で急きょ1日だけ召集されましたが、キャメロン首相は大失敗しました。

2. キャメロン首相の大失敗

キャメロン首相が下院で屈辱を味わった。この出来事はキャメロン政権の大きな転換点となったといえる。

シリアのアサド政権が反政府勢力に化学兵器を使い、多くの子供を含む住民が死亡したことで、アサド政権への懲罰的な攻撃を求める国際世論が高まった。それを受けて、キャメロン首相が米国のオバマ大統領らと相談し、シリアへの共同攻撃をする計画を立てた。

そしてそれに英国の下院で承認を受けようとしたが、証拠が確定的とは言えず、下院の採決では賛成 272、反対 285 (総議席数は 650) で、13 票差で否決された。

その大きな原因は、野党労働党が反対に回ったことである。また、30 人の保守党下院議員が反対し、また、連立を組む自民党も 9 人が反対した。つまり、保守党・自民党で反対した 39 人のうち、もし 7 人が反対から賛成に替わっていれば、この動議は賛成多数で可決されたはずだった。しかも閣僚や準閣僚の中に、この採決に出席しなかった者もいた。

この結果を聞いた時、まず、2015 年の総選挙では保守党は勝てないと感じた。それにはいくつかの理由がある。

① この敗北でキャメロン首相の権威が地に落ちたことだ。過去 200 年余りにわたって、戦争や武力行使の問題で首相の判断が覆されたことはない。

首相には女王に助言する立場から事実上、軍を動かす権力がある。しかし、ブレア元首相がイラク参戦の判断をした時に、下院にその承認を求めた。その後任のブラウン前首相も軍を動かす際には下院に承認を求めると明言したいきさつもある。

それらの前例、さらには世論の 3 分の 2 がシリアへのミサイル攻撃に反対する中でキャメロン首相には自分の立場を強めたいという思いもあっただろう。さらに成功すれば、キャメロン首相の国際的なステイツマンとしての威信が向上するかもしれないという計算もあっただろうが、逆に恥辱にまみれた。

② しかし、真の問題は、これで保守党内の力学が変わってしまったことだ。今回のような重要な採決に多くの反乱者を出したことだ。(次ページに続く)

Even though we face the difficulties of today and tomorrow, I still have a dream.

私たちは今日も明日も困難に直面していますが、それでも私には夢があります。

マーティン・ルーサー・キング

2. キャメロン首相の大失敗(前ページより続き)

キャメロン首相は、7月、8月と、経済数値が上向きで、すべてがうまく行っているように振る舞っていたが、党内にはキャメロン首相の政権・党運営に不満を持つ人たちがかなりいる。

これらの人たちが、キャメロン首相では次期総選挙に勝てないと見て、さらにキャメロン首相の指示に従わない可能性が高まった。さらには、党首の信任投票を司る 1922 委員会へ信任投票を求める人の数が増える可能性がある。そのため、党首交代、そしてそれに伴う総選挙という可能性も否定しきれないだろう。

③ これらの問題を引き起こした原因の一つは、キャメロン首相の「お友達メンタリティ」にあるように思われる。つまり、親しい人たちで周囲を固めており、物事を冷静に批判的に見られる人が乏しいことだ(選挙ストラテジストのリントン・クロスビーが事前にどの程度関係していたかは不明だが、採決後の判断は素早かった。シリアは票にならないとし、英国は少なくとも当面軍事介入しないこととした)。

キャメロン首相が、労働党のミリバンド党首と直接話をし、アサド政権へのミサイル攻撃に賛成していると思ったそうだが、しかし、労働党内の状況を考えれば、ミリバンドがどのような判断をする可能性があるか考えておくべきだった。ミリバンドは、労働党はイラク戦争で過ちを犯したと謝罪している。つまり、イラクで、大量破壊兵器の証拠がないまま、武力行使に踏み切ったこの舞はしないということである。また、労働党内には、ミサイル攻撃に反対の人が多くいる。

近所の人の 90 歳の誕生日



これらのことを考え、ミリバンドの言葉を疑うべきであった。そして、最悪の場合、労働党の賛成が得られない場合でも、保守党と自民党で過半数を握っていることから、賛成票を得る可能性はあった。

わずかな票が覆れば、結果は異なったものとなったが、それを可能にする慎重な党内統制がなかった。担当の下院院内幹事長が弱く、首相官邸が乗り出したが、一日だけの招集では統制の徹底が不十分だった。下院は 9 月 2 日から再開するのになぜそれまで待てなかったのか？キャメロン首相の責任がこの点でも問われる。

結局、キャメロン首相は、自らの政治キャピタルに大打撃を与えたと思われる。サンデータイムズ/YouGov が 8 月 30 日、31 日に行った世論調査では、保守党の支持率は 31 ポイントで労働党に再び 10 ポイントの差をつけられた。

3. キャメロン政権の性急な公務員改革

英国の公務員のトップは、内国公務の長(Head of the Civil Service)で、現職はコミュニティ・地方自治体省の事務次官も務めるボブ・カースレイクである。地方自治体のチーフ・エグゼクティブ出身だ。これまで公務員改革を進める内閣府担当大臣のフランス・モウドと交渉しながら、急速な改革を求めるモウドを抑え、制度の改革を進めてきた。他の人よりも大きな改革を進めているという元事務次官もいる。

それでもモウドはカースレイクには十分な改革ができないとし、他の人に替えようとしているようだ。しかし、次の総選挙まで 1 年半余りとなり、次期総選挙への動きが活発化している現在、誰がこのポストに就こうとも実績を出せる時間はあまりない。次期総選挙までにできるだけ多くの成果を出したいという気持ちはわかるが、性急な改革は、ことを混乱させるだけではないかと思われる。

4.政治家列伝:マーティン・マクギネス

1950年5月23日生まれ。IRA（アイルランド共和軍）の元テロリストで、シン・フェイン党所属の北アイルランド議会議員。デリー（ロンドンデリー）にカソリックとして生まれ、若くして、アイルランド共和国との統一を求めるナショナリストの過激派であるリパブリカン運動に入った。

1997年から2013年1月まで英国下院議員だった。女王に忠誠を誓うことを拒否して審議に参加しなかったが、2012年について女王と握手した。2007年から北アイルランド政府の副首席大臣を務めているが、シン・フェイン党と正反対の立場の民主統一党（DUP）党首イアン・ペイズリー首席大臣と一緒に働く。北アイルランド政府では首席大臣と副首席大臣は権限が同じであり、両者が協力しなければ運営できない仕組みだ。

2007年12月、ホワイトハウスにブッシュ大統領をペイズリーと訪問した際、マクギネスは「今年3月26日まで、イアン・ペイズリーとは口をきいたこともなかった。今や過去7か月間一緒に非常に密接に働いてきている。口論したこともない」と述べた。二人の親密ぶりは有名で「クスクス笑いの兄弟」とまで言われたほどだ。そして、ペイズリーの後任の首席大臣ピーター・ロビンソン DUP 党首と2008年以来ともに働いている。

マクギネスは1972年初めには21歳でデリーのIRAのナンバー2になっていたと言われる。1972年1月30日にデリーで起き、14人のカソリックが死亡した「血の日曜日事件」にはその地位にいた。（次ページへ続く）

地上を走る地下鉄



雑記

北アイルランドの政治状況はかなり落ち着いてきているようだ。

恒例の夏のパレードシーズンでは行進する人たちと、警察、さらに対立するセクトが衝突し、多くの怪我人を出した。対立するリパブリカン（南のアイルランド共和国との統一を求める「ナショナリスト」の過激派）とロイヤリスト（英国とのつながりを維持しようとする「ユニオニスト」の過激派）の勢力のいがみ合いは今でも続いているが、他の地域から来た人たちへの対応やもてなしは素晴らしいようだ。このことはかなり昔から言われている。よそから来た人たちはすぐにわかる。喋ればその発音でわかるのである。

G8のサミットに続き、北アイルランドでこの8月初めに開かれた世界警察・消防競技大会は10日間続いた。この競技大会に参加するために世界67か国から7千人の人が訪れた。この大会は、オリンピックに続く世界有数の大きなスポーツイベントである。

このイベントは成功裏に終わったようだ。大会会長は大会史上最も友好的で最高だったとコメントしている。また、妻の友人がこの競技大会に参加した人が絵葉書に「この大会は素晴らしい」と書き送ってきた。

まだ地元での問題はありますが、多極共存体制を取る北アイルランド政府は2007年からつつがなく続いている。そして両極端の考え方を持っていた政治家たちが今や協力して働いている。今号で取り上げたマーティン・マクギネスが、あのイアン・ペイズリーと昵懇の関係になるなど考えた人は誰もいなかっただろう。ペイズリーは、リパブリカンたちとの妥協を一切拒否し「ネバー、ネバー、ネバー」と言った人物である。北アイルランドでは暗い、悲しい記憶が今もなお鮮明だが、人間の可能性には素晴らしいものがあるように思う。

4. マーティン・マクギネス(続き)

後に「血の日曜日事件」の公式調査で、その日、マクギネスは、トンプソン・サブマシンガンを持っていたと思われるが「パラシュート部隊の攻撃を正当化するような行動をしていたと確信するような証拠はない」とされた。

1972年には、シン・フェイン党の代表ジェリー・アダムズと、ヒース政権の北アイルランド大臣ウィリー・ホワイトローと交渉した。後に北アイルランドの平和をもたらした1998年のグッド・フライデー合意（ベルファスト合意）にはシン・フェイン党のチーフ・ネゴシエーターだった。

マクギネスは、1973年に113キロの爆薬と5千発近い銃弾の見つかった自動車の近くで逮捕され、アイルランドの特別犯罪法廷で6か月の刑期を受けた。その後、IRAのメンバーとしてもう一度刑期をつとめることとなる。

2005年にはアイルランドの副首相が、マクギネスは、アダムズらとともにIRA軍評議会の7人のメンバーのうちの一人だと発言している。信憑性の高い発言だろう。

いずれにしても、多くの殺人事件に関係したと言われ、その手を血で染めた人物が、1998年の選挙後には北アイルランドの教育相となった。今や副首席大臣で、将来、もし、シン・フェイン党が北アイルランド議会で最大政党となれば、首席大臣となるかもしれない人物である。



ウィンブルドンパーク
のワイルドフラワー

5. 政治とお金

英国では、下院議員に当選しても金銭的な見返りはない。ブレア元首相のように首相退任後、回顧録で何億円もの印税を得（それは負傷した軍人の慈善団体に寄付したが）、講演やコンサルタントとして多くのお金を稼ぎメディアで批判される人もいるが、そういう人はあまりいない。

かつて労働党首相だったハロルド・ウィルソンは困窮し、それを見かねた保守党の元首相テッド・ヒースが自分の持家を貸したという逸話もあるほどだ。

保守党支持者のウェブサイトが、保守党下院議員となるためのコストのアンケートを取ったことがある。選挙にかかる費用ではなく、候補者となるためにどの程度コストがかかり、候補者となってどの程度個人の費用がかかるかについて調べたものである。

保守党の候補者となろうとすれば、通常、保守党本部のリストに掲載されるためのアセスメントを受ける。そしてそれから空席の選挙区支部に応募する。アセスメントに参加する費用は個人持ちだ。

日本のように選挙区とのつながりは重視されない。応募する前に選挙区の状況を見聞するため足を運べばその旅費も必要だ。応募した後、選挙区支部で候補者を絞り込んでいく過程で何度も候補者選定委員会に出席する必要があり、その旅費もかかる。ほとんどの人は普通の仕事を持っているために、遠い場所では休暇を取る必要がある。

候補者に選ばれれば、選挙区と仕事の地と二つの住居を維持しなければならないかもしれない。これらのため、候補者になるには「お金がかかる」と考えられている。政党の選挙区支部が選挙を行うため、通常、選挙に個人のお金を注ぎ込むことはない。

当選しても、議員報酬は年に66,396ポンド(996万円)。報酬が低すぎるので有能な人材を惹きつけられないとの批判があるが、有能な人も多い。

政治でお金を期待できない英国の政治は、より純粋な政治家を生み出す可能性が高いように思われる。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk